



ゴロスケ報々



絵：笹本優花さん
(鳥のくらし発見隊)

斜陽と火の鳥とエゾリス

●友の会プロジェクト紹介（昆虫調べ隊）●

今年の4月に新しくできた「昆虫調べ隊」です。主な活動はカワセミファンクラブで行っていた「モニ1000チョウ類調査」及び「トンボ類調査」と、新たな活動として、モニ1000チョウ類調査の「後継者の確保と育成」に力を入れていきます。

モニ1000はご存知の通り「100年調査を継続する」ことが『必要』です。普通種を長期間調査し、その本質的な変化を見極める為です。特に昆虫は個体数の年次変動が激しく、短期間調査では意味がありません。

温暖化や環境変化の所為か、私が子供の頃（50年以上前）横浜にはいなかった（いるはずがなかった）チョウがもう何種も当たり前のように飛んでいますし、逆にいたはずのチョウの何種かが全く見当たりません。でも何時から減ったのか或いは増えたのか？詳しいデータはありません。今も昆虫相は変化していますが、モニ1000開始後10数年程度のデータではまだまだ明確な変化は捉えられません。

これから80数年後はどんなチョウが飛んでいるのでしょうか？子供の頃チョウが好きだった皆さん、お子さんやお孫さんがチョウチョに興味を持っている皆さん、3月半ばから11月末までの原則毎週木曜日（及び8月から11月の第4日曜日）に森でチョウチョを見ながらウロウロしている我々にお声掛け下さい。将来のための調査に協力して頂けませんか？

岸本

友の会目標

友の会は、横浜自然観察の森を中心として、身近な自然とふれあい、自然を愛し、自然に学び、自然を守り、育て、自然を愛する人々を育てようということを目的としています。

●7月定例会報告●

日時 2023年7月16日(日) 9:15~11:15

出席者 青木、秋元、今村、大浦、落合、片岡、岸本、久門、志釜、高橋、中里、中塚、西山、半田、星隈、水上、山口、和田、渡部 観察センター：尾崎R、中沢R

議題 1 友の会の6月から7月までの行事・活動報告をしました。

6月18日「森を守るボランティア体験」は参加者無しのため、中止になりました。PJ 行事では「季節の森を歩こう」(ハンミョウの会)、「みんなでバードウォッチング」(鳥のくらし発見隊)、「畑と作物を作ろう」(畑PJ)、「森の絵本を楽しもう」(森の絵本づくりの会)、「モニ1000チョウ・トンボ類体験調査」(昆虫調べ隊)、また「ウィズコロナでの安全な活動や行事の運営」をテーマに安全管理講習会が開かれ、友の会ガイドラインの見直しを話し合いました。実施予定の行事は巻末の行事スケジュールをご覧ください。

2 その他

- ・「秋の森まるごと体験」(10/15)の実施要項が検討されました。参加予定PJはカワセミFC、雑木林FC、畑PJ、ハンミョウの会、鳥のくらし発見隊、森の絵本づくりの会、定点カメラで動物調査、野草の調査と保護です。
- ・友の会腕章の老朽化と在庫不足に伴い、100枚の追加作成を決定しました。
- ・9月からの定例会は、すべて対面で行うことになりました。コロナ感染状況の変化があった場合は、リモートでの参加も検討します。
- ・行事保険が適用になる行事を確認しました。各行事のPMの方は、行事終了月の末日までに、行事の催行の有無及び一般参加者の人数を担当の青木さんまで連絡してください。
- ・年間行事の追加がある場合は、必ず事務局(中里)までご連絡下さい。
- ・2人の新しい会員が加わりました。

3 センターより センター便りのページをご覧ください。

<次定例会> 9月15日(日) 9:15~(観察センター研修室)の予定です。(対面で開催します。)

★定例会は会員どなたでも出席できます。

●2023年度安全管理講習報告●

「ウィズコロナでの安全な活動や行事の運営」

今年度の安全管理講習のテーマは昨年11月の理事会で決定していましたが、本年1月に政府がコロナ感染症の分類を5月から5類に移行する発表があり、改めて感染防止の基本をふりかえり、この3年の間に友の会がどのようにコロナ禍に対応し、そこから何を学び、これからそれをどう活かしていくか、お互いに経験を共有する場になることになりました。

このため各プロジェクトを対象に、1月下旬から下記のアンケートを実施して、大部分のプロジェクトから回答をいただきました。

問1：感染拡大後、プロジェクトでは、日ごろの活動にどのような影響や困りごとがありましたか。

問2：問1の変化に対して、活動の休止も含め、何か対策や活動上の工夫をされましたか。工夫を実施するにあたってどのような課題があり、どのように解決されましたか。

問3：実際に行った工夫を、今後の活動や行事にどのように活かしていきますか。

安全管理担当では、アンケート結果の整理・分析とともに、2020年5月に自然観察センター(日本野鳥の会)【以下、センター】と友の会が公表した「コロナウィルス(COVID-19)感染拡大防止を踏まえたボランティア活動ガイドライン」の改訂案を作成しました。

5月21日の安全管理講習(参加者15名)では、アンケート回答に記載された具体的なケースも含め、各プロジェクトの苦労や工夫の経過を報告しました。更にガイドラインの改訂案の内容について意見交換を行いました。そこで指摘されたいくつかの事項を見直した上、5月23日に改訂案をセンターに提案しました。

センターではその内容を確認し、横浜市環境創造局にも報告し了解を得ました。その上で、7月16日の理事会に改訂されたガイドラインがセンターから報告され、表現の一部を補足した上で、正式にセンターから公表し、友の会の内部でも周知させることになりました。この報告では文面は割愛しますが、アンケートに回答をいただいたプロジェクトにお礼を申し上げるとともに、友の会会員の皆さんには、それぞれの活動の中で、新たなガイドラインに沿った安全対策の遵守をお願いします。

安全管理担当：中塚c

淡水赤潮、アオコについて

2019年に私がこのコーナーを担当した際、「赤潮やアオコの何が問題なのかについて触れませんでしたね。それでは、またの機会に。」という形で終わりました。4年の歳月を経て（オリンピックみたいですが）機会が巡ってきましたので、続きを書きたいと思います。ところで赤潮というと一般には海洋での現象ですので、アオコと並べて書くために本稿ではあえて淡水赤潮に限って書かせていただきます。とりあえず、復習も兼ねて淡水赤潮とアオコについて簡単にどのようなもの記します。

- 淡水赤潮：渦鞭毛藻類、褐色鞭毛藻類、黄金色藻類等の藻類が大量に増殖し、湖沼の水の色が著しく変わる現象で、赤褐色、茶褐色などの色を呈す状態です。主に栄養分の少ない貧栄養湖で発生することが多いのが特徴です。
- アオコ（青粉）：ラン藻類が大量に増殖し、池や湖沼の水面が緑色の粉をまいたようになる状態です。以前は、緑藻類やミドリムシなどが大量増殖し池や湖沼の水の色が緑色になる状態もアオコと言っていました。最近ではラン藻類が大量増殖した場合のみを指すことが多いようです。栄養分の多い富栄養湖で発生するのが特徴です。

さて、この二つの現象、見た目が全く異なり、発生する湖沼の状況も違いますが、どちらも単一もしくはごく少数の種の藻類が大量増殖した状態であるという点では同じです。どうしてこうした異常発生が起こるのか？生態学の教科書などにはいろいろ書いてありますが、本当のところはまだよくはわかっていないのが実情です。

異常発生というと何となく問題だなと思います。何が問題かということ、まずは景観が悪いとか悪臭がするといった言わば観光上の被害があります。また、水道水源に淡水赤潮やアオコが発生した場合、水道水にかび臭いとか生ぐさ臭いといった異臭味をつけたり、藻体が漏出して水道水に濁りが生じたり、逆にろ過池を詰まらせて浄水処理ができなくなるなどの被害を受けます。そのため、水道ではこれらの対策に苦心いたします。

一方、藻類がえらに詰まって魚を窒息死させるといった例もありますが、海で起こる青潮のように酸欠による生物の大量死は発生しません。アオコ等で湖面が覆われると水中に光が届かず光合成が阻害されるといった生態学的な悪影響が指摘されることもあります。しかし、赤潮を形成する藻類は運動性があるものが多く、風の影響も受けるので1か所に留まることはありません。アオコを形成する生物もガス胞を持ち、自身の光合成と呼吸作用によるガス胞の膨張、収縮によって鉛直方向に移動するため1日中水面に存在するわけではなく、赤潮と同様風の影響も受けます。つまり実際に問題が大きいのは、人間生活ということでしょうか？

ただ、最後に触れておかなければならないのは、赤潮やアオコを形成する藻類の中には有毒なものがあるということです。しかし、紙面が尽きてしまいましたのでこれについては改めてということ。念のため申し上げますが、こうした藻類が産生する毒は塩素で分解しますので、水道水で健康被害を受けることはありません。ご安心を。

By Minoru Aoki

●畑と作物をつくろう～生き物にあふれた畑を目指して～●

日時：6月17日（土）10：00～12：00 参加者3名 スタッフ9名

畑プロジェクトでは3年ぶりに一般参加者対象の行事を行いました。5名の応募でしたが、当日はお母さんと7歳、2歳の息子さん3名でした。雨の心配をよそに晴天で暑過ぎ。日陰の少ない外作業のため給水を20分に1回とこまめに行い、時に参加者に日傘をさしかけての作業でした。タマネギとジャガイモの収穫という小さな子でも一緒に行うことのできる内容で、ますますの量が採れました。

余った時間でコムギの収穫やダイズの種まきも一緒に出来ました。2歳児には長すぎたようなので少し早めに切り上げることにし、収穫物をみんなで分配してお土産にいただきました。けが人も病人も出ず無事に終了致しました。

次回は、11月18日（土）を予定しております。

担当：畑プロジェクト

●「野草保護の助っ人」●

7/11, 参加者：4人 スタッフ：4人 熱中症警戒アラートが発令されたため野外作業は7/17に延期。17日には参加できない参加者が集まり、室内でレクチャー。

7/15, 参加者：6人 スタッフ：4人

7/17（7/11の延期分）、熱中症警戒アラートが発令されたため、中止。

参加して下さったみなさま、参加予定だったのに2度も熱中症警戒アラートが発令されて、結局中止になってしまったみなさま、助っ人ありがとうございました。

野外作業は、7/15だけ実施することができました。まずは「抜きたい」外来種セイタカアワダチソウと、「残したい」在来の希少植物の見分け方を覚えて、それから作業です。3種とも葉が似ているのですが、残したい植物には今花が咲いているので、見分けやすい時期です。だから暑い時期ですが、今が作業時です。

セイタカアワダチソウは放っておくと見上げるほど大きくなったり、びっしりと繁茂しすぎるし、他の植物が生えるのを阻害する物質を根から出しますので、他の植物が生えにくくなってしまいます。多年生植物なので、切っただけだとまた来年おっしく生えてきますので、抜くのが一番。

この作業地は3年目なので、セイタカアワダチソウはずいぶん減りましたし、背も低くなっています。今年は、草丈は腰近くまで。年々楽になるのは、みなさんに助っ人していただいて、続けているからこそです。

また、草地は、人が手を入れて維持しないと、林に移り変わってしまいます。草地の希少植物には、人の助けが必要です。

助っ人も3年目。何かあったら声をかけてよ、かけつけるよ、と言ってくれる心強いメンバーが少しずつ増えてきて、植物たちも助かっています。みなさま、おつかれさまでした！

野草の調査と保護（ふじた・かおる）

写真キャプション

撮影：自然観察センター

作業前（左）：セイタカアワダチソウが腰まで生えている

作業後（右）：セイタカアワダチソウがなくなりました！



イラスト：Mu

●自然の本の紹介交流●

日時：7月30日(日) 10:00-11:30 参加者6名、スタッフ1名
 好きな自然の本を一冊持ってきていただき、紹介し合いました。また本へのおみや本からPJ活動へのかかわりなどのお話を聞かせていただきました。持ってきていただいた本は次の通りです。
 「きつねとぶどう」「ぎふちょう」「わたしと小鳥とすずと」「種子」「生き物の死にざま」「日本原色カメムシ図鑑」「山からの絵本」でした。最後に並べた本の記念写真を撮りました。
 暑いなか参加していただいたみなさま、ありがとうございました。 担当：ごろすけカフェ志釜

友の会行事のお知らせ

●森で自然の本を読もう●

好きな自然(動物・鳥・昆虫・植物など)の本や絵本を一人一冊持ち寄り紹介し合います。
 日時：9月30日(土) 10:00~11:30 (荒天中止)
 場所：自然観察の森ごろすけ館 対象・定員：中学生以上・7人先着順です。
 持ち物：紹介したい自然の本や絵本を一冊 申し込み：9月1日(土)から [Eメール entry@ynstomo.org](mailto:entry@ynstomo.org)
 ①行事名(森で自然の本を読もう)、②お名前、③メールアドレスをお書きになって申し込みください。
 担当：ごろすけ館交流担当

●森の作業体験(間伐体験)●

日時：2023年9月23日(土) 10:00~12:00
 ノコギリを使って木を伐採する体験ができるほか、薪割りやコースター作りや竹細工なども体験できます。当日はドラム缶窯を使った炭焼きを行っています。見学も可能です。
 集合：10:00までに観察の森・炭焼き小屋
 対象・定員：10名(中学生以下、保護者同伴)
 ※人数は状況により、変更します。多い場合は先着順とします。
 申込期間：8月23日(水)~9月20日(水)
 ※天候などにより、やむを得ず中止する場合がありますことをご了承ください。
 Fax(045-894-8892)(自然観察センター)
 またはEメール(entry@ynstomo.org) 担当：雑木林ファンクラブ



●カワセミファンクラブ 秋の特別写真展●

期間：9月24日(日)~11月25日(土)
 会場：自然観察センターごろすけ館
 今回は「横浜自然観察の森で見られる木や草の実と野鳥達及びチョウ類の写真展」と題し、野鳥の好む木や草の実と共に写った鳥たちの写真と、この森で目にする事のできる美しいチョウたちの厳選写真を集めて展示します。是非ご来場下さい。
 担当：カワセミファンクラブ

●森を守るボランティア体験●

~自然観察からはじめるボランティア~
 日時：9月24日(日) 9:30~12:00
 対象：友の会のボランティア体験活動に興味のある方10名(抽選)※小学生以上。
 小学生は保護者同伴。内容は主に大人向けです。
 申込：横浜自然観察の森HPをご覧ください。
 担当：森の案内人・ハンミョウの会

●秋の森まるごと体験●

日時：10月15日(日)
 集合：スタッフ(友の会会員) 9:15
 観察の森と友の会の活動を紹介する行事です。8つのPJが参加します。4年ぶりの開催です。
 みんなの力で盛り上げましょう。
 担当：自然観察センターと友の会の共催行事です。

●トンボ池の環境整備●

日時：10月29日(日) 9:30 センター前集合
 対象：友の会会員(中学生以上)
 持ち物：汚れても良い服装、飲み物、帽子、軍手、出来れば長靴
 申込：Eメール(entry@ynstomo.org)
 または対面でも受付 担当：昆虫調べ隊



【報告と記録】 友の会向けお話し会 ～観察の森の開園時からの植生のうつりかわり～

7月16日（日）、古南幸弘（元横浜自然観察の森チーフレンジャー／（公財）日本野鳥の会施設運営支援室長）を話し手に上記テーマのお話し会を開催しました。観察の森は開園時から、市民とともに「この森をどうしていこうか」という想いを形にし、実践し、保全に取り組んできました。主な内容をご紹介します。

●**開園にいたるまで**：1960年代にゴルフ場開発のため、敷地の一部が造成され、樹木や土壌がはぎとられた状態になりました。周辺も宅地化が進みました。その後開発は中止となり観察の森を含む円海山一帯が、「首都圏近郊緑地」として保全対象となりました。横浜市による、ビジターセンターと散策路の整備の計画と、環境庁の「自然観察の森」事業が合流し、1986年、全国で初めての「自然観察の森」が誕生しました。

●**開園からの10年**：自然観察の森の基本計画にもとづき、現・観察センター付近等の造成地は盛り土や植樹をして自然を復元しました。その際、外来種や園芸種も植栽してしまったのは、今になって悔やまれます。クヌギの林は雑木林を育てるため、植林をしたものです。クヌギの林は、明るい林を保つために、草刈や伐採（萌芽更新）が必要でした。1990年に林の管理のために観察センターが「雑木林ファンクラブ」を行事として開始、「市民参加による雑木林管理」が始まりました。このメンバーを中心に友の会プロジェクトとしての「雑木林ファンクラブ」が発足しました。

●**ふたつの保全管理計画**：開園当時、管理の基本としていた「基本計画報告書」には林の管理方法について詳しく触れていませんでした。そこで、「木を切って明るい林を維持する雑木林管理ゾーン」と、「木の成長を見守る遷移させるゾーン」を定めた、「保全管理計画2005年版」を策定しました。さらに水辺や草地、トレイル沿いの管理の仕方を加えた「保全管理計画2013年版」が続きました。いずれも友の会のみなさんの日ごろの成果や意見を積極的に取り入れたものです。

●**観察の森の森づくりをふりかえって**：森が成長し、森林を好むオオルリ、センダイムシクイなどが増えました。一方、草原性のホオジロなどは減ったようです。草地と雑木林の維持は、草地と林縁に生息する生きもののために大切です。保全管理計画には保全対象を「注目すべき種」として掲載しています。生きものを「目立つか」「美しいか」だけでなく、この森で減っている・増えている、周辺の緑地に多い・少ないなど、保護の観点から優先度を考えたものです。森の管理では、生きもの様子を調べながら、計画とその実施を繰り返す「順応的管理（森のPCDAサイクル）」が重要です。

○**レンジャーより今後の予定**：雑木林ファンクラブより、クヌギの林の樹木の調査結果と今後の管理の提案が観察センターに寄せられています。計画をまとめるにあたり、会員のみなさんの日ごろの観察情報や生きもの目線、利用者目線での声をお聞かせいただきたいです。相談差し上げる際はどうぞよろしくお願いいたします。

お話し会には25名の会員のみなさんにご参加いただきました。このお話し会は録画記録していますので、ぜひご覧ください。視聴方法はレンジャーにご相談ください。

【報告】新型コロナ ガイドラインを改訂しました

「新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大防止を踏まえたボランティア活動ガイドライン」改訂版を、7月の定例会にて確定しました。5月の「安全管理講習会」で会員の皆様に議論いただいた内容を反映しています。定例会のメーリングリストにもアップしています。プロジェクト活動の際にも担当レンジャーからお伝えいたします。

【ご協力ください】観察センターにご一報を！

最近、園内では数件の事件（不審者、飼いうさぎが放される等）が発生しています。ボランティア活動中お気づきのことがありましたら、ご一報ください。

【写真撮ってね】記念撮影スポット誕生

観察センター内に、記念撮影ができるスポットができました！早速夏休みに訪れているご家族が撮影しています。会員の皆様もぜひ記念の1枚を！



【よみとき調査報告】*このコーナーではレンジャーの取り組む調査についてご紹介します。

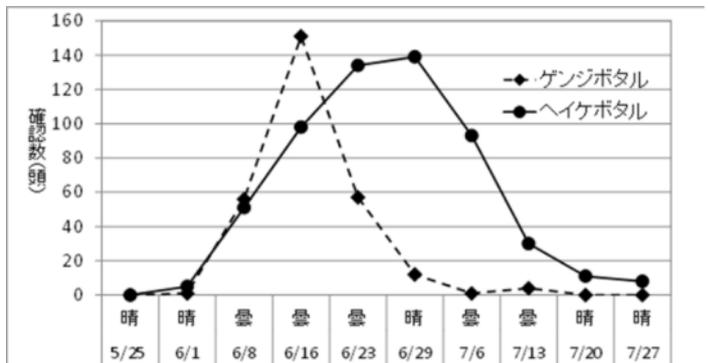
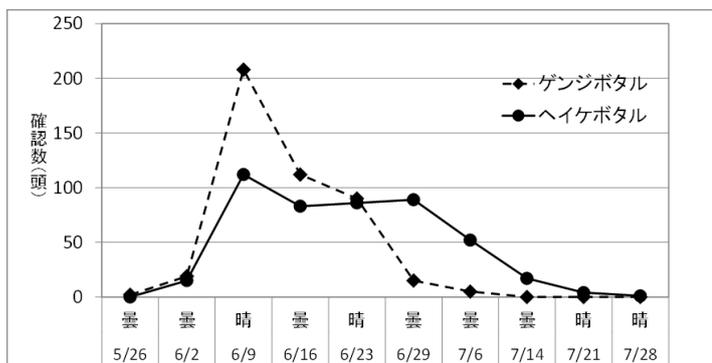


ホタルはいつでるの？～水生ホタル類成虫発生数調査より～

5月に入ると「もう出てる？」と、よく聞かれるようになります。なかには「5月**日に行くのですがたくさんみられますか??」というピンポイント質問まで！！（レンジャーも知りたーい）

観察の森では開園時（1986年）からホタルの数を毎週カウントしています。同じコース、同じ頻度で毎回数えることで、数の変化を比べることのできる記録になります。

左の図は2021年度の発生の様子です。ゲンジボタル、ヘイケボタルともに6/9が出現のピークです。



「じゃ、6月初めに来れば、2種の最大数が見られる！」と、喜ぶのは早とちり。2022年度のピークは、右の図のようにずれました。調査をもとに回答しつつも、完全に期待に沿う回答は難しい……。ですが、ホタルは野生の生きもの、さまざまな要因に影響されて出てきていると、あらためて気づいてもらえれば嬉しいです。

ほかの年はどうなの？→気になった方はぜひ調査報告書を見てみましょう。観察の森HPでも公開中です。

2023年度の調査速報は、観察センターで展示中です。

ボランティアさん
ありがとう

6月1日～7月31日

- ・カワセミファンクラブのみなさま／自然情報・園内の利用状況の情報提供
- ・野草の調査と保護プロジェクトのみなさま／自然情報のご提供
- ・鳥のくらし発見隊のみなさま／野鳥情報のご提供
- ・雑木林ファンクラブのみなさま／薪のご提供、関係者駐車場の草刈
- ・石川裕一さん、今村修さん、高橋恵子さん／主催行事へのご協力
- ・今村修さん、岩崎由春さん／調査へのご協力
- ・秋元文雄さん／防犯用品のご寄贈



指定管理者： 公益財団法人
日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

行事スケジュール 8月～10月

■：センター行事
●：友の会行事
★：共催行事

●友の会 季節行事●(一般参加者募集)

●カワセミファンクラブ 秋の特別写真展

期間：9/24(日)～11/25(土)
会場：自然観察センターごろすけ館
横浜自然観察の森で見られる木や草の実と野鳥達及びチョウ類の写真展 担当：カワセミファンクラブ

★秋の森まるごと体験 4年ぶりの開催です！

10/15(日) スタッフ集合 9:15
観察の森と友の会の活動を紹介する行事です。8PJが参加します。みんなの力で盛り上げましょう。
担当：自然観察センターと友の会の共催行事です。

●森で自然の本を読もう

日時：9/30(土) 10:00～11:30
持ち物：好きな自然の本や絵本を一冊(荒天中止)
対象：中学生以上7人(先着順)
申込：9/1(土)からEメール
(entry@ynstomo.org)にて。行事名(森で自然の本を読もう)、お名前、メールアドレスを明記
担当：ごろすけ館交流担当

森の作業体験(9/23(土))、森を守るボランティア体験(9/24(日))は5ページ参照。

●友の会 季節行事●(友の会会員向け)

●トンボ池の環境整備

日時：10/29(日) 9:30(センター前集合)
対象：友の会会員(中学生以上)
持ち物：汚れても良い服装、飲み物、帽子、軍手、出来れば長靴
申込：Eメール(entry@ynstomo.org)
または対面でも受付 担当：昆虫調べ隊

●自然観察センター主催行事●

■みどりウォーク in 荒井沢市民の森

いたち川源流の森で愛護会の皆さんと稲刈体験や散策をします。
開催日：9/30(土) ※雨天、猛暑時は10/7(土)へ延期
時間：9:30～14:30 場所：荒井沢市民の森
対象：中学生以上20名(抽選)
※山道や100段以上の階段の昇降あり。
申込：9/23(土)までに要申込。詳細はホームページへ。

■森の生きもの講演会

「地域の植物を調べる」ことについてお話を聞きます。実習あり。
日時：10/21(土) 10:00～15:00
講師：大西 亘氏(神奈川県立生命の星・地球博物館)
対象：中学生以上 定員あり(抽選)
申込：必要 詳細はホームページ等の案内をお待ちください。

●友の会 定例行事●(一般参加者募集)

●季節の森を歩こう(対面開催)

～季節の変化や生き物のつながりを楽しみながら～
9/3(日)・10/1(日)
11:00～1時間程度
定員：先着10組(1端末が1組、1組何人でも可)
申込：メールで entry@ynstomo.org
担当：森の案内人・ハンミョウの会 毎月第1日曜

●みんなでバードウォッチング(野鳥観察)

～のんびり楽しむバードウォッチング～

事前申込制で活動しています

9/10(日)・10/8(日)
9:20～12:00(少雨決行)
定員：40名(事前申込、応募多数の場合抽選)
対象：小学生以上(小学生は保護者同伴で)
申込：メールで entry@ynstomo.org
申込内容等、詳細はブログ「森のでできごと」参照
担当：鳥のくらし発見隊 毎月第2日曜

●友の会 定例行事●(友の会会員向け)

●定点カメラで動物調査

9/9(土)・10/14(土)
9:30～12:00
※雨天の場合、日程を変更する可能性あり。
センターに確認のこと。
対象：友の会会員向け(最大6名まで)
持ち物：汚れても良い白っぽい服、動きやすい靴で
タオル、水筒持参
集合：ゴロスケ館 5月～11月の第2土曜日

●参加者募集中止・未定の定例行事●

●畑と作物をつくろう

～生き物にあふれた畑を目指して～
次回は11/18(土)の予定です。

●森の絵本を楽しもう

～簡単ミニ絵本づくりと読み聞かせ～
2023年度行事活動は中止です。

発行日 2023年8月23日
発行 横浜自然観察の森友の会
FAX 045-894-8892
E-mail: jimukyoku@ynstomo.org